

地域の顔 ～コラボ教育に参加して～

須磨区竜が台地区民生委員児童委員協議会 会長 高橋千栄子さん
 竜が台では、市看護大学からコラボ教育のお話を頂いた時に、「私たちにどんなお手伝い出来るのか？地域の方にどんな事業が受け入れられるのか？」を考えてみました。他地区での様子も伺いながら出した結論は「地域の保健室」の開催です。学生の頃、体調に不安を感じた時に行ってみようと思った“保健室”のイメージでした。

地域福祉センターからは、色々なイベントの情報を発して来ましたが、関心を持って頂く事が少なく参加も少ない状況でした。

「地域の保健室」に何人の方が来てくださるか？どんな方が来てくださるか？不安な気持ちがある中、6月と7月に全10回の「地域の保健室」を開催しました。開催してみると、意外な事に初めて福祉センターに足を運んでくださる方もあり、のべ200人の方に参加頂いた事は嬉しい驚きでした。参加された皆さんからのご意見で、皆さんの健康志向の強さを知る事が出来、また、情報の伝達方法の大切さに気付かされた事は大きな収穫でした。

「地域の保健室」実施にあたり、市看護大学の先生方、たくさんの学生さんにご尽力をいただきました。お疲れ様でした。ありがとうございました。立派な看護師さんに成長されることが、参加された皆さんや私たち（民生委員）の願いです。学生の皆さん、頑張ってください。

行政の地域づくり・健康づくり

～地域の力と情熱があふれる住みよいまち～須磨～

神戸市須磨区北須磨支所 保健福祉課課長 後藤靖さん
 須磨区では、須磨区計画「地域の力と情熱があふれる住みよいまち～須磨～」に基づき、須磨区の個性を活かした市民の健康づくりを応援してきました。例えば、地域の個性を活かした健康づくりを進める「健康づくりリーダーの活動支援」「須磨いるウォーキング講演会」、健康づくり情報の収集・発信を行う「健康づくり情報一覧」の発行、まち歩きを楽しむ環境づくりのための「須磨いるウォーキングマップ」の作成などを行ってきました。

今年度、介護保険法の改正が行われ、介護保険制度の見直しがされています。高齢者が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指しています。一方で、介護が必要になった時の支援も大切ですが、要介護状態にならないよう、また、重度化しないよう介護予防が何よりも必要です。その中で、地域での健康づくり活動の重要性はますます増大していきます。同時に地域の健康づくり活動に参加することで、社会参加が促される効果もあります。

北須磨支所管内はいわゆるオールドニュータウンで高齢化が進んでいますが、地域での健康づくりや見守り活動など様々な活動が行われ、元気な地域が多くあります。地域の医療、福祉関係者のご尽力もあるでしょうし、なによりも地域のリーダーの皆さんの日常の活動が元気な地域をつくらせているのではと思います。そういったリーダーの活動を支援することも行政の役割ですし、須磨区でも引き続き力を入れていきます。北須磨支所管内は都市における高齢化という点で、全国平均より進んでいる地域です。この地域での様々な試みが、今後、高齢化が進む他の地域での課題解決の手がかりになるのではと思います。

コラボ教育での学び ～COC 事業による私たちの地域とのつながり～

神戸市看護大学 2 回生 島田和史

COC事業が本格的に始動した2014年、私は様々な場面で神戸市看護大学の学生としてCOC事業活動に参加してきました。その中でも最も印象深く、学びを得られたのは看護技術を学ぶ講義とCOCとのコラボ教育でした。

その講義では血圧や脈拍、筋肉や骨格系、呼吸関係の測定を学生同士が患者役、看護師役になって練習をしており、講義の最後にそれらの測定をCOC事業として地域の方々に実施するためにそれぞれ真剣に練習しました。学生同士で患者役、看護師役がそれぞれ何をするのか知った上で行うのとは異なり、実際に地域の方に実施してみようという意識がはつきりとわかりました。まず私が感じたのは意識の違いでした。自分たちは演習ということ意識していたためか、地域の方々に看護行為を実施することそれ自体が目的になっていました。しかし来られる方々は皆測定値が出ると、その測定値は何を示しているのか、自分たちの健康状態はどうかということを知りたがっていました。測定することが目的となっていた私にとってこの質問に的確にこたえることはできませんでした。

血圧や脈拍、呼吸数は年齢や持病によって基準値が異なります。そのため、ある人の血圧や脈拍を測定して、その値が年齢での基準値より高くても、その人が高血圧なら普段と比べて低いのかもかもしれません。そのように思考し、その人に合った答えを出すには自分の持っている知識では足りなく力不足を感じました。このとき自分は自分たちが講義を通して学んでいることと自分の意識との違いに気づけました。まだ自分は看護という専門分野に触れて日も浅いですが、このように自身が学んだ看護技術を一般の方々に対して行えるということは、非常に貴重で有益な経験だと感じることができました。



基礎看護技術演習Ⅱ

2人1組となり、住民さんの健康測定を実施（筆者は左端）

COC研究ひろば 第1回

～大学、地域、行政が協働ですすめるコミュニティケアづくり～

神戸市看護大学 学長・地域連携教育・研究センター長 鈴木志津枝
 地（知）の拠点整備事業（Center of Community, COC）「地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケアの拠点づくり」事業がスタートして2年目を迎えています。これまで、神戸市看護大学は、地域住民や自治体と協働して、神戸市が掲げている「訪問看護人材の育成」「医療連携の強化」「地域ケアシステムの構築」「地域住民ネットワークの構築」という4課題の解決に向けて、さまざまな教育、研究、地域貢献活動に取り組んできました。その結果、地域住民の暮らしに対する学生の関心の高まりや学習意欲の向上、コミュニティケアに関する教員の理解の促進、地域住民の健康への関心や意識の向上など、学内外や地域社会等への波及効果が広がり、学内の教職員のCOC事業に対するモチベーションも高まっています。

ここで、コミュニティケアや多職種連携に関するCOC共同研究について紹介したいと思います。今年度から、本学の教員とコミュニティケアに関わる保健・医療・福祉従事者等と共同で、8つのCOC共同研究が進行しています。研究テーマは「参加型評価手法による徘徊ネットワーク事業評価と事業評価ベンチマークシステムの開発」「継続看護を可視化する在宅支援室の体制構築に向けたニーズ調査と在宅支援事業案の作成」「須磨区多職種連携の充実と組織化に関する研究」「健康づくりリーダー支援事業を通じた住民間ネットワークづくりとその評価」「終末期患者の家族・遺族支援プログラム開発に関連した評価研究」「強い心理反応や精神症状を有する利用者や家族の対応に困難を感じる訪問看護師への支援体制の検討」「委託型地域包括支援センターに対する『地域診断』研修の評価」「認知症の高齢者と家族が地域で暮らす力を獲得していく過程と支援のあり方の検討」です。これらの研究を通して、神戸市が掲げている課題の解決に向けた提案ができると考えています。



大学図書館 COC コーナー



基礎看護技術演習Ⅰ

学生とお手伝いで参加くださった民生委員さん（筆者は右端）



北須磨地区の位置